

仙台高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)	授業科目	卒業研究 (長期インターンシップ)
科目基礎情報					
科目番号	0051	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 0		
開設学科	機械システム工学科	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	0		
教科書/教材					
担当教員	石川 信幸,北島 宏之,濱西 伸治				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	研究において、文献講読、実験・解析、フィールド調査等を計画性を持って遂行し、研究の目的、方法、結果、考察、結論等を十分にまとめて、適切にプレゼンテーションできる。	研究において、文献講読、実験・解析、フィールド調査等を遂行し、研究の目的、方法、結果、考察、結論等をまとめて、プレゼンテーションできる。	研究において、文献講読、実験・解析、フィールド調査等が計画的に遂行できない。研究の目的、方法、結果、考察、結論等をまとめて、プレゼンテーションが適切にできない。		
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	全体的な目標としては専門に関わる課題を通して問題解決能力を付けることである。				
授業の進め方・方法	前期は、本校教員より提示された課題のうち希望するものに関して教員の指導の下で実施する。後期は、前期の課題を踏まえ、長期インターンシップ先の国内外大学や企業において先方の担当者の指導の下で、関連する課題を実施する。				
注意点	長期インターンシップ期間においても学習記録を付けること。準学士課程で学ぶ専門科目、総合セミナーの知識や技術が前提となる。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 本校における研究として、大きく以下の2つに分類される。①テーマに応じて検討した課題・問題の解明・究明方法に基づいて、実験、調査、データ解析等を実施し、分析を通じて、問題・課題の解決策について検討する。	①実験結果、調査結果、解析結果などの科学分析を通して、解決策を検討することにより、技術者としての問題・課題解決能力を身につける。	
		2週	②検討結果を受けて、研究の目的・方法・分析結果・考察などをまとめる。	②教員との議論を基に研究成果をレポートとしてまとめ、発表することにより、全体をまとめる能力を身につける。	
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週	2. インターンシップ先における研究として、大きく以下の2つに分類される。③テーマに応じ、検討課題・問題の解明・究明方法に基づき、実験・解析等を行い、分析により、解決策を検討する。	③実験・調査・解析結果などの分析を通して、解決策を検討することで、問題・課題解決能力を身につける。	
		2週	④検討結果を受けて、研究目的・方法・結果・考察等をまとめる。	④先方での指導者との議論を基に研究成果をレポートとしてまとめ、発表することにより、全体をまとめる能力を身に付ける。	
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			

		14週		
		15週		
		16週	3. 本校における発表。⑤本校及びインターンシップ先での成果を発表する。	⑤全成果を論文としてまとめ、聴衆の前で発表し質疑応答することで、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を付ける。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	専門的能力の美質化	インターンシップ	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	4	
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	4	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	4	
				企業における社会的責任を理解できる。	4	
				企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	4	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	4	
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	4	
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	4	
				社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	4	
			実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	4		

評価割合

	卒業論文	前刷り	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	20	20	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0